

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	1		
科 目 名	物理学概論				
担 当 者	田中達也				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.8	4.6	4.7	4.3	4.9	
学生へのメッセージ					
<p>本授業の目的は、中学校理科の物理領域に関わる基本法則や概念を学び、自然現象を理解するための「見方・考え方」を身につけることでした。また、法則や概念を個別に覚えるのではなく、互いのつながりや体系の中での位置づけを意識しながら理解を深めることも大切にしてきました。</p> <p>授業を通して、皆さんが事前・事後の学修に丁寧に取り組み、分からない点をそのままにせず理解へ近づこうとする姿が印象に残っています。高校での履修経験に差がある中でも、それぞれの立ち位置から粘り強く考え、説明を自分の言葉に直していく姿勢に、学びの確かさを感じました。</p> <p>物理は、公式を当てはめるだけの教科ではなく、「なぜそう言えるのか」を根拠にもとづいて組み立てる学問です。本授業で得た、現象を整理し、条件を押さえ、言葉と式で説明する感覚は、理科を教える立場になったときに必ず役に立ちます。今回の学びが、皆さんにとって物理を少し身近にし、世界を「仕組みとして眺める視点」につながっていれば、これほど嬉しいことはありません。これからも学びを続けてください。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	理科概論				
担 当 者	田中達也				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.1	4.9	4.9	4.9	4.9	
学生へのメッセージ					
<p>本授業「理科概論」では、小学校理科の基礎となる概念や原理を理解するとともに、それらを授業として成立させるための教材研究・学習活動・評価のつながりを意識できるようになることを目的としていました。知識の獲得にとどまらず、科学的な見方・考え方を子どもの学びに“翻訳”する力を身につけることを重視しました。</p> <p>アンケート結果からは、授業内容や進め方、学修成果の面で高い評価が示されており、皆さんが主体的に学びを組み立てていたことが伝わってきました。特に、教材研究を通して試行錯誤し、納得に至るプロセスを大切にしていた点は、本授業のねらいに合致する学び方でした。</p> <p>一方で、学びの質は環境にも影響されます。教室の寒さに関するご意見もありましたので、次年度は事前の調整や運用面の工夫を行い、学習に集中しやすい条件を整えていきます。</p> <p>理科教育は、子どもの好奇心を問いに変え、確かめ方を設計し、結果を説明へつなげる営みです。今回得た教材研究の視点と、違和感から問いを立て直す姿勢を、今後の授業づくりの基盤として磨き続けていただければ幸いです。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	理科実験 I				
担 当 者	田中達也・森永速男				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.1	4.7	4.6	4.7	4.6	
学生へのメッセージ					
<p>本授業では、小学校理科における実験を、手順の実行にとどめず、観察・測定・記録・解釈・説明へとつながる探究のプロセスとして捉えられるようになることを目的としていました。安全配慮や基本技能の習得に加え、得られた結果を根拠として説明し、授業に転用できる形へ整理する力を身につけることを重視しました。</p> <p>授業評価からは、授業内容の分かりやすさや進行、質問対応などについて肯定的に受け止められており、安心して実験に取り組める場になっていたことがうかがえました。また、授業外でも一定の学修時間が確保されていた点は、学びを定着させようとする姿勢の表れであり、大変頼もしく感じています。</p> <p>一方で、実験は「できた」で終わると授業力にはつながりにくい面があります。次年度は、①結果の読み取り（比較・条件・誤差の扱い）を深める時間、②授業化する際の発問・板書・評価の具体化、③レポート作成の観点（何を根拠に何を述べるのか）の提示を、より手厚くする方向で改善します。</p> <p>理科実験の価値は、子どもに「なぜそうなるのか」を問い返し、確かめ方を一緒に設計し、結果を説明へつなげるところにあります。今回の学びを、教育実習や今後の授業づくりに生かし、理科の楽しさと納得を子どもに届けられる指導者へ成長していただければ幸いです。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	3		
科 目 名	子ども家庭支援論				
担 当 者	大城亜水				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.6	4.7	4.7	4.6	4.7	
学生へのメッセージ					
<p>2025 年度後期「子ども家庭支援論」の授業評価にご協力いただき、ありがとうございました。今回の結果では、総合評価をはじめ、多くの項目で学科平均を上回る評価をいただき、大変嬉しく思っています。特に、「わかりやすい内容」「知的関心や好奇心を起す内容」「話し方」「教材の使い方」などの項目において高い評価をいただき、授業づくりの励みとなりました。</p> <p>自由記述では、座学だけでなくグループワークや体験的な活動があったこと、赤ちゃんアート制作など実践的な取り組みが印象に残ったことなど、前向きなご意見をいただきました。みなさんが主体的に参加し、楽しみながら学んでくれたことをとても嬉しく思います。</p> <p>一方で、「交換日記をまたしたい」といったご意見もありました。今後は、学生のみなさんとの双方向のやり取りをさらに充実させ、より学びが深まる授業となるよう工夫していきたいと考えています。</p> <p>これからも、子どもや家庭支援に関する理解を深め、現場で活かせる知識と姿勢を身につけていけるよう、一緒に学びを重ねていきましょう。</p> <p>改めて、貴重なご意見をありがとうございました。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	4		
科 目 名	子どもと人間関係				
担 当 者	大城亜水				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.4	3.9	4.0	3.9	3.9	
学生へのメッセージ					
<p>授業改善に関するご意見を確認いたしました。</p> <p>本授業「子どもと人間関係」は、神戸常盤大学教育学部こども教育学科 4 年次の集大成科目として、専門的知識の統合に加え、対人援助職に求められる対話力、協働性、倫理観および関係形成能力の涵養を目的として実施いたしました。本学科のディプロマ・ポリシーにおいても、これらの資質は専門的能力と不可分の到達目標として位置づけられています。</p> <p>大学教育は、学生の自律的かつ主体的な学修参加を前提とする高等教育機関の営みです。学修環境は、授業設計のみならず、受講者一人ひとりの傾聴、相互尊重、節度ある発言および協働的姿勢によって形成されます。とりわけ本科目は「人間関係」を主題とする性質上、学修の場そのものが実践的学習の一部を構成しています。</p> <p>対人援助職においては、環境や他者を統制することによって課題を解決するのではなく、自らが関係性を調整し、場を整え、対話を通して問題解決を図る姿勢が専門職倫理の基盤となります。その観点から、学修環境の課題を一律の発言制限等によって解決するという考え方は、本科目の教育目的および専門職養成の趣旨と必ずしも整合するものではありません。</p> <p>いただいたご意見は、今後の教育活動を検討する際の参考といたします。同時に、本学科を修了し専門職として社会に出るにあたり、本授業で扱った「人間関係」の理論と実践的視点が、各自の現場において具体的に活かされることを期待いたします。</p> <p>以上をもって、本件に対する回答といたします。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	1		
科 目 名	情報メディア演習				
担 当 者	大城亜水				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.6	4.3	4.4	4.2	4.3	
学生へのメッセージ					
<p>2025 年度後期「情報メディア演習」の授業評価にご協力いただき、ありがとうございました。今回の結果では、総合評価は学科平均と同程度の評価をいただきました。特に、「教材の使い方」「話し方」「目標の提示」などの項目では比較的高い評価をいただき、日頃の授業運営について一定のご理解をいただけたことを嬉しく思います。</p> <p>自由記述では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークを通して協調性やチームワークを養えたこと ・PowerPoint 作成や音声挿入、動画制作など新しいスキルを学べたこと ・質問しやすい雰囲気であったこと <p>など、前向きなご意見を多くいただきました。</p> <p>一方で、以下のような改善点も挙げられていました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠隔授業が多いことへの不安や不満 ・遠隔授業時の音声の聞き取りにくさ ・課題の難易度や説明の分かりにくさ ・グループ内での役割の偏り ・提出期限の明示 ・教室の場所や 1 限の時間帯について <p>遠隔授業については、内容の意図や目的がより明確に伝わるよう工夫し、音声や資料の質の向上にも努めます。また、グループワークでは役割分担が偏らない仕組みや、個々の貢献が可視化できる方法を取り入れていきたいと考えています。課題の説明や締切についても、より丁寧に明示するよう改善していきます。</p> <p>皆さんの率直なご意見は、より良い授業づくりのための大切な財産です。これからも、実践的な情報活用能力を身につけられる授業を目指して工夫を重ねていきます。</p> <p>ご協力、本当にありがとうございました。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	1		
科 目 名	地域との協働 A				
担 当 者	大城亜水				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.1	4.6	4.8	4.8	4.8	
学生へのメッセージ					
<p>授業評価へのご協力、ありがとうございました。</p> <p>本授業の総合評価は学科平均を上回る結果となり、授業内容・方法・学修成果の各項目においても高い評価をいただきました。特に、「授業はわかりやすい内容であった」「知的関心や好奇心を起す内容であった」「満足している」といった項目で高評価を得られたことを大変嬉しく思います。</p> <p>自由記述での具体的なコメントはありませんでしたが、評価結果からは、授業の目的や内容が概ね適切に伝わっていたこと、そして一定の学修成果を実感していただけたことがうかがえます。</p> <p>地域との協働は、単に知識を学ぶだけではなく、「考える」「行動する」「他者と関わる」といった実践的な力を育む学びです。今回の経験が、今後の学修や実習、そして将来の進路選択に活かされることを期待しています。</p> <p>今後もより充実した学びとなるよう、工夫と改善を重ねてまいります。ご協力ありがとうございました。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	1		
科 目 名	英語コミュニケーションⅡ（保・幼教育コース）				
担 当 者	脇本聡美				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.9	4.7	4.7	4.7	4.6	
学生へのメッセージ					
<p>コミュニケーションのツールである英語は使いながら学習しなければ上達はしません。この考えに基づき、この授業では英語を使うことを意識してもらいました。そうした活動の一つがパワーポイントを使った英語発表でした。これは準備が大変だったと思いますが、毎回、みなさんの発表をととても楽しませてもらいました。</p> <p>コミュニケーションの手段として英語を使えるようになることは、今以上に必要になることが予想されます。中学校や高校で英語学習につまずいてしまった人も少なからずいると思いますが、今の段階でそれぞれがもっている英語の力を使ってできることは必ずあります。それをこの授業で実感してもらいたいという思いで授業をしました。みなさんに取り組んでもらったペアワーク、グループワーク、英語発表、エッセイなどを通して、自分の知っている英語を使ってコミュニケーションを取ることができる、と感じてもらえたのなら、とても嬉しく思います。英語でできることをさらに増やせるよう、是非英語学習を続けていってほしいと思います。また、海外のことやできごとに興味を持つことも大事です。好きなアーティストの英語の歌やインタビュー、英語の映画、英語の雑誌、英語絵本などなんでもいいので、これからも英語と関わり続けてください。英語学習で困ったことや、質問があるときは、いつでも研究室を訪ねてくださいね。</p> <p>コメントをたくさん書いてくださってありがとうございました。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	1		
科 目 名	英語コミュニケーションⅡ（義務教育コース）				
担 当 者	脇本聡美				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.0	4.5	4.5	4.3	4.5	
学生へのメッセージ					
<p>コミュニケーションのツールである英語は使いながら学習しなければ上達はしません。この考えに基づき、この授業では英語を使うことを意識してもらいました。そうした活動の一つがパワーポイントを使った英語発表でした。これは準備が大変だったと思いますが、毎回、みなさんの発表をととても楽しませてもらいました。</p> <p>コミュニケーションの手段として英語を使えるようになることは、今以上に必要になることが予想されます。小学校教員を目指す人は、英語を教えることにもなります。中学校や高校で英語学習につまずいてしまった人も少なからずいると思いますが、今の段階でそれぞれがもっている英語の力を使ってできることは必ずあります。それをこの授業で実感してもらいたいという思いで授業をしました。みなさんに取り組んでもらったペアワーク、グループワーク、英語発表、エッセイなどを通して、自分の知っている英語を使ってコミュニケーションを取ることができる、と感じてもらえたのなら、とても嬉しく思います。</p> <p>英語でできることをさらに増やせるよう、是非英語学習を続けていってほしいと思います。また、海外のことやできごとに興味を持つことも大事です。小学校教員を目指す人にとってはその姿勢は必須です。まずは、好きなアーティストの英語の歌やインタビュー、英語の映画、英語の雑誌、英語絵本などなんでもいいので、英語と関わり続けましょう。英語学習で困ったことや、質問があるときは、いつでも研究室を訪ねてくださいね。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	1		
科 目 名	教育原理				
担 当 者	光成研一郎				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.4	4.0	4.0	4.0	4.0	
学生へのメッセージ					
<p>皆さんのコメントを読むと授業を進めるのが速い（スライドの送りが速い）と感じた学生が一定数いたようなので、来年度はもう少し進め方について配慮したいと考えています。しかしながら速いと感じる学生がいるのと同様に遅いと感じる学生もいるので、そのあたりの兼ね合いが難しいです。再履修の学生はなぜ今年パスできなかったのかを考え、来年にいかしてください。グループ発表についてはおおむね好評だったので、次年度以降も継続していこうと思います。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	4		
科 目 名	防災教育実践				
担 当 者	光成 研一郎				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.0	4.7	4.7	4.6	4.6	
学生へのメッセージ					
<p>この授業はグループで取り組む授業なので、意欲の高い学生に受講してもらうよう最初の授業で厳しいことを言います。学生の声として「貴重な経験ができる授業なので、最初から脅しをかけるような言い方はしない方がよいと思います。」というご意見もいただきました。来年度からはこの授業の意図がきっちり伝わるように説明しようと思いました。「小学校現場をお借りするので、非常に責任のある授業であること。やる気のある学生にだけ負担がかからないように、役割分担をきっちりこなせる学生が受講してほしいです」、など丁寧な説明をしようと思います。総じて小学校で授業実践の経験を積めたことが皆さんの自信につながったようで、学生の評価も高かったです。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	乳児保育Ⅱ				
担 当 者	松尾寛子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.7	4.3	4.3	4.3	4.3	
学生へのメッセージ					
<p>授業内で教材を作成しましたが、一人一人がよく考えて作成しておられたことが印象的です。授業内でリズム活動を実施した回がありましたが、教室外で実施出来たらよかったですと思います。1名だけですが、生徒に対して不公平なことがあったと自由記述で書いてありました。どのような場面だったのかがわからずにいます。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	障害児の理解と支援Ⅱ				
担 当 者	松尾寛子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.3	4.2	4.2	4.2	4.2	
学生へのメッセージ					
<p>事例を交えながら授業することを心掛けていました。意識の高い学生さんは、授業の事例を自分が保育するときのイメージを持ちながら取り組むことができていたと思います。障害児保育についてより深く理解できた、障害児の見方が変わった、これまで障害児とどのように接すればよいのかわからなかったが分かるようになった、などの前向きな意見がほとんどでした。しかし、1名のみ「保育士以外や障害児に対する配慮が不十分である」という意見がありました。同じクラスで同じ授業を受けていても、このように受け止め方が異なる方がいることを、不思議に感じています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	4		
科 目 名	保育・教育メソッド				
担 当 者	松尾寛子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.4	4.7	4.5	4.5	4.6	
学生へのメッセージ					
<p>授業を真面目に受ける学生さんもおられて、感心しました。自由記述では、園見学が良かったとの意見がありました。実際の保育を観察することにより、各園が大切にされている保育のメソッドを理解され、学生さんの学びにつながったのであれば嬉しく思います。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	4		
科 目 名	保育実践演習				
担 当 者	松尾寛子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.5	4.2	4.1	4.2	4.2	
学生へのメッセージ					
<p>多くの課題を期限内によく頑張っておられたと思います。さすが4年生だと思える場面がたくさんありました。KIT 実習については、今年度初めての取り組みでした。改善点が必要だと思われる記述がいくつかありましたので、次年度は教員間で共有していきたいと思っています。KIT 実習以外の意見についても学びはたくさんあったと思うので、自由記述でご意見伺いたかったです。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	1		
科 目 名	保育・教育実践演習 I				
担 当 者	山下敦子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.7	4.6	4.6	4.6	4.7	
学生へのメッセージ					
<p>保育・教育実践演習 I では、大学における学びの方法や就職を見据えた進路ガイダンスなどをゼミ別で行いました。「実習について詳しく知ることができた」「実践的な授業だった」「実習ができてよかった」という感想が多くありました。みなさんの今後に役に立つ授業が実践できたと思います。2年次になると実習も本格化してきます。将来の進路をしっかりと考え、今学ぶべきことは何かを常に意識して学び続けてください。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	インターンシップ A				
担 当 者	山下敦子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.6	4.6	4.7	4.8	4.7	
学生へのメッセージ					
<p>小学校、中学校でのスクールサポーターの経験は、今後につながる豊かなものになったと思います。教育現場のリアルを感じたのではないのでしょうか。今、教育現場は「働き方改革」が進んでいます。ずいぶん、勤務内容や時間も精選されてきました。それは何のため？もちろん児童・生徒に向き合う時間を作るためです。教材研究、子どもや保護者対応等教員免許が必要な職務に時間をかけるためです。3年になると教育実習が始まります。この経験をいかして「学び続ける教師」として伸びていってください。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	国語				
担 当 者	山下敦子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.0	4.7	4.7	4.8	4.8	
学生へのメッセージ					
<p>国語の授業、みなさん熱心に取り組んでいたと思います。児童へのコメントやこども本の森神戸のレポートを見ていると、教育について、児童生徒についてイメージをしながら取り組んでいたことがよくわかります。「意欲的に参加した」という回答が4.0(学科平均3.6)というのもこの裏付けだと考えます。この授業では、言語活動を大切にすること、日常生活に反映する国語の授業をつくること、こどもの困り感を把握して授業づくりを計画することなどを学びました。教育実習に生かしてください。期待しています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	幼児理解				
担 当 者	山田秀江				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.1	4.5	4.6	4.5	4.7	
学生へのメッセージ					
<p>保育実践は幼児を理解することから始まります。一人一人の子どもが、何を願い、どんな気持ちで日々過ごしているのか、また保育者の見えないところで子どもたちはどんな関係性を築いているのかについて、子どもとの関わりや観察を通して理解します。その上でその子にあった保育内容を考え、保育を行います。また、幼児理解の基本はカウンセリングマインドであるという考えにたち、子どもの立場になって子どもを受け入れ共感し、幼児理解を図ることができる保育者になってほしいと願い、授業を行いました。</p> <p>授業では幼児理解の基本的な理論や心理学的なアプローチなどの教授と具体的な事例をもとに考察した内容を出し合い、考えを共有しながら理解が深められるように進めました。皆さんからは私自身が思っていたものより、よい評価をいただけたので少し安心しました。また、自由記述では、「事例が多く理解しやすかった」という意見があり、理論と実践が繋がるように、事例の読み取りを重視した内容はよかったのだとわかりました。他には「毎回ふりかえりをするのがよかった」という意見がありました。毎回のコメントシートの記入とこちらからの赤ペンでのフィードバックが皆さんの学びの定着に繋がったのであれば大変よかったと思います。本授業の担当は今年度で終了となりますが、皆さんからいただいた評価を参考に他の授業でも活かしていきたいと思っています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	保育・教育課程論				
担 当 者	山田秀江				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.5	4.5	4.5	4.4	4.5	
学生へのメッセージ					
<p>本授業では幼稚園の教育課程や保育所等の全体の計画と様々な指導計画について説明をしました。保育は入園から修了までの長い見通しと日々の子どもの姿の両方を捉えて計画を立てる必要があります、その考え方や計画立案について講義を行いました。さらに、設定保育の指導案を個々に考えたり、グループで年間の指導計画に基づいた月々の計画立案とその内容についての発表を行ったりとできるだけ能動的に授業に取り組めるよう一部演習も取り入れました。</p> <p>指導計画立案は子どもの発達理解と保育のねらいと内容の理解を踏まえて活動内容を考え、適切な環境構成や援助方法などを検討しなければなりません。学生さんにとっては、難しい内容だったと思いますが、本授業は講義だけでなく、演習もあったので理解しやすかったとの自由記述の回答がありよかったです。今後も教育課程等の全体の計画と長期指導計画、短期指導計画について受講生の個々の理解に応じた指導方法を工夫し、実習等で役立つような実践力(指導計画を立案する力)を身につけられる授業方法について検討していきたいと思っています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	1		
科 目 名	保育者論				
担 当 者	山田秀江				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.6	4.7	4.7	4.7	4.8	
学生へのメッセージ					
<p>本授業は「保育者」という仕事の本質や特質を捉えるとともに、法的な位置づけなども理解できるよう授業を行いました。また、幼稚園の実践動画や保育所の一日の流れを示した事例などを用いて、できるだけ具体的に保育者の仕事内容や役割が理解できるように努めました。さらに、可能な限りグループワークを取り入れ、対話を通して質の高い保育が実践できる保育者について考察を深められるようにも努めました。自由記述で「グループワークを通して学ぶことが多かった」との回答が複数ありよかったです。また、できるだけ具体的で実践的な保育者をイメージできるよう、私自身の保育実践を元にした事例を多く語りました。それにより、よりリアルに保育について考えることができたようで、自由記述にそのような回答も複数ありました。</p> <p>よりよい保育者とはどのような保育者なのか、どんな保育者になりたいのか、皆さん自身がこれからの学びの中で探求していくきっかけになる授業にしたいと考えています。今後も様々な役割を求められている「保育者」について理解が深まるよう、講義とグループワークをバランスよく取り入れながら授業を工夫していきたいと思ひます。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	3		
科 目 名	子どもの歯と健康				
担 当 者	吉田幸恵				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.5	4.0	4.0	4.1	4.1	
学生へのメッセージ					
<p>体験学習を実施することで学習が深められたとの結果から、次年度もさらに工夫を重ねた授業を展開します。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	1		
科 目 名	子ども家庭福祉				
担 当 者	橋本好市				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.4	4.2	4.2	4.1	4.3	
学生へのメッセージ					
<p>自由記述も拝見しました。真摯に受け止め、改善すべき点は努力し、講義内容については常に最新の内容に更新して、役に立つ内容に努めてまいります。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	3		
科 目 名	保育実習指導 I				
担 当 者	橋本好市				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.2	4.3	4.1	4.3	4.3	
学生へのメッセージ					
<p>自由記述も拝見しました。真摯に受け止め、改善すべき点は努力し、講義内容については常に最新の内容に更新して、役に立つ内容に努めてまいります。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	3		
科 目 名	子どもの障害と医療				
担 当 者	橋本好市				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.7	4.3	4.3	4.2	4.5	
学生へのメッセージ					
<p>自由記述も拝見しました。真摯に受け止め、改善すべき点は努力し、講義内容については常に最新の内容に更新して、役に立つ内容に努めてまいります。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	子どもと身体表現				
担 当 者	近藤みづき				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.1	4.6	4.6	4.7	4.7	
学生へのメッセージ					
<p>皆さんがおおむね満足する授業が展開できたかと感じています。これも皆さんが積極的に授業に取り組んでくれたからだ感謝しています。</p> <p>自由記述欄をみると「体で表現することはあまり好きではなかったけどこの授業を受けて楽しいと思えることができました。」「自分たちでストーリーを選んで表現の発表をするので自分たちで工夫しながらできた」というコメントがありました。一方で否定的なメッセージはありませんでした。</p> <p>身体で表現する楽しさを感じてもらえたことは、とても嬉しかったです。また、次年度も皆さんが充実して活動できるように、授業内容を工夫したいと考えています。</p> <p>「子どもと身体表現」の授業で皆さんが創った身体表現作品は、どれも趣向を凝らした本当に素敵な作品ばかりでした。小道具を極力少なくし、身体だけで表現させた作品や、音楽や衣装を工夫した作品がありました。また、皆さんのふりかえりコメントも的確なものが多かったです。今後、この経験を子ども達の表現活動につなげられることを期待しています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	1		
科 目 名	教育心理学				
担 当 者	柳原利佳子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.8	4.2	4.3	4.2	4.3	
学生へのメッセージ					
<p>大人数の授業で一斉授業であるため、昨年の授業から配布資料を穴埋め形式のプリントを作成して書くことを通して授業を聞いていただけのように変更して授業を進めています。教員採用試験を意識して講義をしているため、心理学の専門用語や研究者名など小テストや定期試験でも出題しました。そのような意味では、「暗記量が多い」という声があがっていました。一方で、「自身の生活や経験などにおいて深くかかわっていたり体験のあることなども多かったため、内容を身近にとらえられた」という意見もいただきました。教育心理学だけではなく、心理学全般に言えることですが、自身の経験にすり合わせることで、理解が深まります。</p> <p>保育・幼児教育コースの方には発達領域については、3年生の「保育の心理学」や「発達心理学」でさらに詳しく学ぶ機会がありますので、自身の経験にすり合わせることを意識して臨んでいただきたいと思います。</p> <p>義務教育コースの方には、今後同じような内容で、私が担当する授業はありませんが、教員採用試験を受ける予定の人は、教育心理の範囲の出題割合は少ないですが、それだけに基礎的なところはきちんと正解を導いてほしいと思っています。過去問を解くなどして、定期的に各回の復習をしておいてくださいね。</p> <p>ご意見ありがとうございました。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	子どもの理解と援助				
担 当 者	柳原利佳子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.3	4.3	4.2	4.1	4.2	
学生へのメッセージ					
<p>クラス別のカテゴリー別平均値は、Aクラス：3.3, 4.0, 4.0, 4.0, 4.0 / Bクラス：3.4, 4.5, 4.3, 4.2, 4.4 でした。Aクラスの方がBクラスよりも相対的にポイントが低いというクラスによる回答の傾向がみられました。自分ではクラスによる違いの原因が実はよくわかっていません。</p> <p>自由記述を見ると、私の作成するレジュメが詰まりすぎているという意見がありました。1～2年生に開講している他の科目と異なり、この科目は絶対に書いてほしいところと、例として示していて、全部写す必要のないところが混在していました。おそらくそこがきちんと伝えられていなかったのではないかと思いました。今後はその区別がもう少しわかりやすく表示できるようにしたいと思います。</p> <p>この科目では毎回の授業の中で、事例を出しながら保育者となるために、誰のどのような気持ちを想像できるか、理解できるか、ということを考えてもらえるように進めていったつもりです。</p> <p>来年からは本格的な実習が始まります。是非いろいろな人の視点に立って観察し、保育に活かせるようになってほしいと思います。</p> <p>ご意見ありがとうございました。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	3		
科 目 名	教科指導法特論 I				
担 当 者	京極重智				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.4	4.2	4.2	4.2	4.5	
学生へのメッセージ					
<p>数値評価については5分野とも学科平均並でした。自由記述については、評価できる点と改善すべき点が表裏一体の関係にありました。具体的には、授業の内容を参加者の進捗や特性に合わせて議論しつつ決めていった点で高評価を受けつつも、スケジュール通りでない部分も見られたためその点が改善すべき点として挙げられていました。次年度以降は、まず、この授業の特性上スケジュール通りに必ずしも進むわけではないことにみなでコンセンサスをとったのちに、進めていくことにします。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	保育・教育実践演習ⅡA				
担 当 者	京極重智				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.0	4.6	4.6	4.6	4.6	
学生へのメッセージ					
<p>数値評価については、どれも学科平均を上回る高い評価となっていました。とくに学生自身の項目について、この授業は事前学習や事後学習、実習などかなり負荷の高い課題が出ていたため、この数値も極めて高い評価となっていました。ただし、自由記述については改善すべき点も多く挙げられており、とりわけ学生にとっては高い負荷として感じられる実習の量や費用負担の観点については、次年度、受講者との相互理解をより綿密に図る必要があると考えています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	1		
科 目 名	化学概論				
担 当 者	日尾泰也				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.7	3.9	3.9	4.1	4.3	
学生へのメッセージ					
<p>この科目については、中学校・高等学校での化学分野（化学基礎・化学）の内容の理解に個人差があるという前提で、「総復習+新しい知識」となるような講義を進めてきました。解説と問題演習を中心としたため、既知の内容が多かった人もいたかもしれません。内容的にあまりワクワクするような講義にはなり得ないと考えていたので、悪い評価ではなかったことを喜んでいます。講義予定の全範囲を進めることはできませんでしたが、学習内容が基礎知識として確実に身につけてもらうことを願っています。</p> <p>また、問題演習を中心に進めたため、時間の関係もあってどのように教えるかという視点での話ができませんでした。みなさんにとってはそこが今後一番大切になるので、教授法・指導法については今後の学習で確実に身につけてもらいたいと考えています。</p> <p>みなさんの活躍を期待します。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	4		
科 目 名	子どもと環境				
担 当 者	大森雅人				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.3	3.9	4.0	4.0	4.0	
学生へのメッセージ					
<p>今回の授業では、子どもを取り巻く環境が大きく変化していること、そしてその変化の中でこれからの子どもたちにどのような力が求められるのかということを中心に考えてきました。私自身、そのことを考えるほどに、領域「環境」で扱う力は子どもたちの将来にとって極めて大切なものだと強く感じています。</p> <p>この授業は4年生後期、皆さんにとって卒業を目前にした時期の授業でもありました。そのため、この大切さを何とか皆さんに伝えたいという思いで授業を進めてきました。しかし振り返ってみると、その思いばかりが先に立ち、十分に伝えきれなかった部分も多かったのではないかと反省しています。</p> <p>本来、領域「環境」で扱う営みは、自分で考えたり試したりしながら何かを生み出していく、とても面白く楽しいものです。しかし正直に言えば、この授業は皆さんにとって必ずしも面白いものではなかったかもしれません。その点についても、私自身の授業の進め方として反省しています。</p> <p>それでも、これからの時代は、一人だけの力ではなく、さまざまな人の力を生かしながら、自ら考え、道を切り開いていくことがますます求められると思います。その基盤になる力の一つが、領域「環境」で扱ってきた力だと私は考えています。</p> <p>皆さんがこれから保育や教育の現場で実践していく中で、今回学んだことのどこか一つでも思い出して生かしてもらえたなら、それはきっと子どもたちの未来につながっていくはずです。そして何より、皆さん自身が健康で、幸せに日々を歩んでいかれることを心から願っています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	4		
科 目 名	教職実践演習 A・B				
担 当 者	中西利恵				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.5	4.2	4.1	4.1	4.2	
学生へのメッセージ					
<p>授業評価については、回答者が18名でした。依頼を徹底できず申し訳ありません。</p> <p>授業への取り組みは、みなさん熱心でした。2年生への「実習を伝える」活動においては、各グループがこれから実習に臨む2年生にとって有益な情報を精査し、伝達方法も工夫して「伝える活動」に取り組んでいました。2年生の評価はとても高かったです。保育教材や実習記録等、実物を用意し、ポスターも活用しながら、2年生がイメージしやすいよう環境を準備されていました。そのため、2年生からは各グループの提供内容や提供方法に対し、具体的でわかりやすかった、知りたいことを知ることができた、役に立ったと、総じて4年生への感謝や尊敬がうかがえました。皆さんの「実習を伝える」のふり返しシートにも、2年生へ伝えることのやりがいや、自身の学びが深まったこと、学年を超えた交流の意義が記述されていました。</p> <p>13・14回目のみつつん先生（学外講師：光本豊治先生）による「カラフルな姓の世界～どんな時もあなた色に輝いて～」の講義は、例年高評価ですが、本年度についてもみなさんのコメントから多くの気づきや学びがあったことがわかりました。みつつん先生もとても手応えを感じておられました。みつつん先生の授業で感じたことを社会に出ても時々思い出してください。</p> <p>最終回のレポートはみなさん丁寧に4年間を振り返り、自己分析、自己評価を実施し、文章化されており、感心しました。4月から社会人ですが、どうぞここでの振り返りを忘れないで歩んでほしいと思います。</p> <p>以下、「改善すべき点」のコメントへの回答です。</p> <p>① 2年生に実習を伝える活動当日に欠席した学生については、成績評価の際に原点しています。</p> <p>② KIT 実習での SA 活動について書かれていましたが、授業科目を間違っておられます。「保育実践演習」です。</p> <p>③ 授業日程が毎週ではなかったので、わかりにくかったようです。授業計画表を配布し、初回授業時に日程設定理由について説明していますので、ご理解をお願いします。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	1		
科 目 名	保育内容総論 A・B				
担 当 者	中西利恵				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.6	4.4	4.4	4.4	4.5	
学生へのメッセージ					
<p>この授業では、まず「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」「幼稚園教育要領解説」での保育内容に関する共通する重要事項について理解を図りました。3種類の解説書を比較して読み込みながら、内容の理解を深めました。皆さん、マーカーで印を付けたり、付箋を付けたりと工夫して確認作業をしていましたね。そして、指針や要領の解説で示されている園での具体的な場面や子どもたちの様子については、実際の園で撮影した動画を教材として使用し、理解を深められるようにしました。園生活での子どもたちの映像教材を熱心に視聴していました。</p> <p>また、授業の後半 30 分では「保育内容を深める遊びや児童文化財」をテーマに、多種多様な児童文化財（素話、絵本、紙芝居、手遊び・うた遊び、折り紙、パネルシアター、ペープサート、わらべうた遊び、昔遊び（伝承遊び）、鬼ごっこ、様々な玩具での遊び等）の中から、1・2 年次の「保育・教育実践演習 I・II」での夏の短期間実習でも実践可能な教材をピックアップし、演習活動を実施しました。「保育・教育実践演習 I」と科目間連携を図り、KIT 実習で実践する低年齢児対象の読み聞かせから演習を開始しました。その他に、幼児対象の読み聞かせ、折り紙を活用した製作や遊び、そして手遊び・うた遊びを取り上げ、毎回グループでの実践や発表に挑戦しました。『この授業でよいと思った点』の自由記述に、「実践力が高まったこと」や「前で実践することが多く、実際の場면을想像しながらできた。」「授業で本格的に人前に立って実践をする機会は前期、後期どちらもほかの講義ではあまりなかったため有意義な経験となった。」とあり、演習活動の成果がうかがえました。</p> <p>模擬保育では、手のひら絵本と紙芝居を製作し、その手作りの紙芝居を教材としたの実践を行いました。多くの学生が練習をして本番に臨んでいるようでした。皆の前で一人で実践することは初めての学生がほとんどだったようです。恥ずかしいですし、とても緊張したと感想を述べていました。全員が頑張った最後までやり遂げました。ただ、練習の度合いに差があることは歴然で、今後は丁寧に準備に取り組むことで、さらに実践力を向上させましょう。</p> <p>15 回を通して、欠席者が多かったことが残念です。</p> <p>自由記述の改善すべき点と思った点については回答します。授業中のスマホについては、カ</p>					

バンの中に片付けるよう指示しています。片付けてくだされば誤解は発生しないと思います。もちろん、使用する場合もありますので、授業中の指示をよく聞いてほしいと思います。

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	4		
科 目 名	生き物と自然の力				
担 当 者	深川 幹				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.6	4.9	4.8	4.8	4.9	
学生へのメッセージ					
<p>本授業では、可能な限り子どもと共に活動する機会を盛り込み、子どもと共に学ぶことを体験してもらいました。4年間の集大成として、子どもとの関わり、声掛け、目の前にある自然への興味関心の引き出し方など、申し分のない姿を見せてくれたと感じています。これからそれぞれの道に進む皆さんが、この場で経験したことを生かして活躍していってくれることを期待します。応援しています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	1		
科 目 名	音楽ⅡAB				
担 当 者	山崎祥代				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.3	4.6	4.6	4.5	4.8	
学生へのメッセージ					
<p>大学に入って初めてピアノを触ったという人も沢山おられましたが、一年間この授業を受けてある程度弾けるようになった人がほとんどでした。ピアノは練習したからといって、すぐに結果が出るものではないものの、毎日少しの時間でも練習を積み重ねていくと必ず上達するということがわかってもらえたと思います。</p> <p>次年度、義務教育コースの方たちは個人レッスンという形の授業はなくなってしまいますが、せっかくここまで弾けるようになった技術をキープできるよう、これからも自学自習を続けましょう。特に、簡易伴奏の付け方は覚えておくとも必ず役立ちますので復習しておいてください。何か質問があればいつでも受け付けます→yamazaki.sachiyo@kobe-tokiwa.ac.jp</p> <p>保育・幼児教育コースの方たちは、次年度も引き続き個人レッスンがあります。今よりもさらに表現力豊かな演奏・子どもたちの様子を見ながら余裕を持った弾き歌いができるよう、一緒に頑張りましょう。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	子どもの健康と安全				
担 当 者	石原 二三代				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.4	4.6	4.6	4.5	4.6	
学生へのメッセージ					
<p>このたびは授業評価へのご協力、そして温かいコメントを本当にありがとうございました。「さいこー!」「たのしかったです!」という言葉や、「先生が優しくて授業を頑張れた」「わかりやすく何回も説明してくれた」という感想をいただき、とても嬉しく思っています。みなさんが前向きに授業に取り組んでくれたからこそ、良い時間を一緒に作ることができました。評価結果を見ると、特に授業内容・授業方法・総合評価の点で高い評価をいただきました。理解しやすさや説明の仕方、進め方について肯定的に受け止めてもらえたことは、大きな励みになります。本当にありがとうございます。</p> <p>一方で、グループ活動での提出物についてのご意見も、とても大切な指摘だと受け止めています。</p> <p>「もっと自分の考えを書きたかった」「頑張りが十分に反映されないのが納得できない」という思いはもっともです。来年度以降は、個人の記述や貢献が見える形を取り入れ、グループ活動と個人評価のバランスを工夫するといった改善を検討していきます。</p> <p>みなさんが真剣に授業に向き合ってくれたからこそ、具体的で建設的な意見が出てきたのだと思います。私は、みなさんの「もっと学びたい」「もっと書きたい」という気持ちをととても頼もしく感じています。</p> <p>これからも、安心して挑戦でき、考えることが楽しいと思える授業を目指していきます。改めて、ありがとうございました。そしてこれからのみなさんの成長を心から応援しています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	子どもと言葉				
担 当 者	多田琴子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.1	4.6	4.5	4.5	4.6	
学生へのメッセージ					
<p>保育者は子どものあこがれの存在です。 憧れの存在である保育者が子ども発達理解をし、その子どもの特性に応じた関わりをすることで、子どもの育ちは育まれます。</p> <p>子どもと言葉の授業内で行った「絵本の読み聞かせ」「ペープサート作成」「パネルシアター作成」「自分人形作成」「作成した児童文化財を使っての模擬保育」の体験は、着実に一人一人の技術向上につながっています。</p> <p>また、グループワークや自己評価と他者評価を何度も行ったことから、客観的に着実に保育を評価する力を身に付け、自己課題や自己の良いところを見つける視点も見出しています。 素晴らしいことです。</p> <p>これからは、さらに良さの発揮を行い、自信をもって子どもの前に立つ保育者を目指して、学生生活の中で自分を磨いてください。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	3		
科 目 名	子どもと音楽表現				
担 当 者	曲田明世				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.5	4.3	4.4	4.4	4.4	
学生へのメッセージ					
<p>皆さんが今まで触れてきた“音楽表現”とは違う観点もあったと思います。ですが、それに戸惑わずに楽しみながら受講いただいたように思います。改善すべき点として、返却物は原本にして欲しいと意見をいただきましたので、今後はその意見を参考にさせていただきます。</p> <p>皆さんと授業を通して様々な活動を共に行うことができ、充実した授業となりました。ありがとうございました。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	3		
科 目 名	子どもの食と栄養Ⅱ				
担 当 者	進藤 容子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.4	4.2	4.0	4.1	4.2	
学生へのメッセージ					
<p>授業では、グループワークを何度かしていただきましたが、しっかりと考えながら取り組めていたと思います。授業で学んだことが保育現場等にかかしていただけることを願っています。皆さんから「良かった」と評価していただいたことや、「照明の加減で見にくいことがあった」など指摘していただいたことを踏まえ、さらに受講しやすい環境を整えていきたいと思っています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	保育内容(造形表現)				
担 当 者	山成昭世				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
予定表配布やプリント配布して参加意識を高める工夫をしていたので事前に準備していた学生が多かった。	授業内容を少し減らしゆとりを持たせたことが理解をふかめた。	Ⅱと関係あるがゆとりある授業が学生の参加意欲を高めたと考える	ゆとりを持たせた授業内容や方法が学修成果を高めたと考える	今年度は受講生の傾向を考慮し内容や方法にゆとりを持たせた。そのことが学生の満足度につながったと考える。	
学生へのメッセージ					

造形活動は保育者自身も楽しいと思う事が、子どもと共感する事に繋がります。
作ったり、描いたりする事を日常生活に積極的に取り入れてください。

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	教科教育法（生活）				
担 当 者	松井奈津子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ （学生自身）	カテゴリーⅡ （授業内容）	カテゴリーⅢ （授業方法）	カテゴリーⅣ （学修成果）	カテゴリーⅤ （総合評価）	
3.9	4.6	4.6	4.6	4.6	
学生へのメッセージ					
<p>児童期の入り口で大きな役割を果たすのが、生活科の授業です。そして、続く教科教育における「探究的な学習」の基礎でもあります。</p> <p>子ども達が体験を通して気づきを深めていけるようにするのが、授業者の大切な役割であることを忘れず、子どもに向かうときには、「丁寧に」「十分に」準備をしてほしいと思います。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	家庭科				
担 当 者	松井奈津子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.7	4.7	4.7	4.6	4.6	
学生へのメッセージ					
<p>家庭科の学習は、総合的な知識・理解と生活に必要な技能が求められます。将来担当する子ども達が、「持続可能な社会を構築する重要な担い手」となるように、皆さん自身が柔軟で幅広いものの見方・考え方を身に付けてくれることを期待しています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	社会的養護Ⅱ				
担 当 者	井出 沙里				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.0	4.4	4.5	4.4	4.5	
学生へのメッセージ					
<p>社会的養護Ⅱの受講お疲れさまでした。</p> <p>各講終了後の自由記述では、真剣に社会的養護の課題について記述して下さる学生の皆さんの姿に私自身が考えさせられる事もありました。</p> <p>子どもは明日を担うかけがえない存在であるとの社会的認識、社会全体での支援の必要性が叫ばれる中、一方で児童虐待など子どもの問題が深刻化・顕在化しています。</p> <p>社会的養護問題の解決、緩和への道筋は、一筋縄ではない大きな課題ですが、全ての子どもが安全かつ安心して育つことのできる家庭環境の実現は、私たち一人一人が子どもの最善の利益について真剣に考えることだと思っています。</p> <p>今後も大学での勉学に励まれ、子どもの心に思いの馳せられる専門職者になられる事を切に願っています。そして、皆さんが子どもの福祉に携わる仲間となってくださる事を心強く感じています。</p> <p>社会的養護Ⅱの受講ありがとうございました。</p>					